

2023年度 個人研究実績・成果報告書

2024年 4月 8日

所属	国際教養学部	職名	准教授	氏名	ムズラックル ハリト
研究課題	語りの構造				
研究キーワード	メッターフルック、落語、アイヌ、アボリジニ、語り、話芸	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	16. 平和と公正をすべての人に	10. 人や国の不平等をなくそう	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

2023年度における私の研究活動は、主に二つの重要なテーマに集中していました。第一のテーマは、アイヌ民族とオーストラリアのアボリジニ民族の「語り」の文化と伝承に関する研究です。このテーマにおいては、関連する文献や学術論文の集積と解析に焦点を当てました。このプロセスにより、語りの構造、機能、社会的・文化的意義を理解しようとしてきました。語りは、これらのコミュニティにおける歴史、文化、価値観を伝える重要な手段であり、その保存と伝承は両文化のアイデンティティを維持する上で不可欠です。しかし、フィールドワークの実施が困難であったため、直接的な観察やインタビューに基づくデータ収集は行えませんでした。この制約にもかかわらず、利用可能な二次資料を通じて、語りが現代社会においてどのように進化し、また影響を受けているかを理解することに努めました。将来的には、フィールドワークを含めたより包括的な研究を行うことで、このテーマに関するさらに深い理解を目指します。

第二の研究テーマは、「メッターフルックの衰退の原因」に関する継続的なリサーチでした。メッターフルックは、トルコの口承文学の形式の一つです。この研究では、メッターフルックが直面している現代の挑戦と、その文化的価値と伝承の重要性を再評価しました。メッターフルックの衰退に影響を与える可能性のある複数の要因について検討しました。これには、グローバリゼーション、デジタルメディアの台頭、そして若い世代の間での文化的伝統への関心の低下などが含まれます。これらの要因がいかんしてメッターフルックの伝統的な実践に影響を及ぼし、その衰退を招いているのかを探求しました。現在までに得られた知見は、来年学術論文として発表する予定であり、この分野における重要な寄稿となることを期待しています。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)
なし

【論文 (査読あり)】

なし

【著書・論文 (査読なし)】

なし

【学会発表等】

なし

3. 主な経費

図書、電子デバイス

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

(本文は2ページ以内にまとめること)